様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	東京工業大学
設置者名	国立大学法人東京工業大学

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名（学院名）	学科名（系名）	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
理学院	数学系 物理学系 化学系 地球惑星科学系	夜・通信	34	－	2	36	13	
工学院	機械系 システム制御系 電気電子系 情報通信系 経営工学系	夜・通信		－	53	87	13	
物質理工学院	材料系 応用化学系	夜・通信		－	5	39	13	
情報理工学院	数理・計算科学系 情報工学系	夜・通信		－	2	36	13	
生命理工学院	生命理工学系	夜・通信		－	4	38	13	
環境・社会理工学院	建築学系 土木・環境工学系 融合理工学系	夜・通信		－	9	43	13	
（備考）理学部、工学部、生命理工学部については平成 28 年 4 月で学生募集停止している。								

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

・該当科目は，シラバスに「実務経験と講義内容との関連」を掲載
・本学ホームページに一覧を掲載（教育・国際連携本部　教育情報の公開）
http://www.eduplan.titech.ac.jp/w/edu_info/

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名：該当なし
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	東京工業大学
設置者名	国立大学法人東京工業大学

１．理事（役員）名簿の公表方法

本学ホームページ（役員一覧） https://www.titech.ac.jp/about/overview/board/

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
常勤	文部科学省 大臣官房文部科学戦略官	2019.4.1～2022.3.31	財務担当
非常勤	太田・石井法律事務所弁護士	2020.4.1～2022.3.31	法務労政担当
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東京工業大学
設置者名	国立大学法人東京工業大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） ・カリキュラムは主に全学共通科目及び各学院（各系）の専門科目により構成される。例年、前年度 11 月頃に教務課から各学院及び全学科目担当部局あてに、翌年度カリキュラム作成依頼を行い、各学院代議員会の議を経て、１月頃までにカリキュラムを決定する。 ・本学では、学士課程・大学院課程を問わず全ての科目について、日本語版・英語版両方のシラバスを作成し､公開する方針を決定している｡翌年度カリキュラム決定後、教務課から授業科目担当教員宛に、日本語版及び英語版の授業計画（シラバス）の作成を依頼する。授業担当教員は教務 web システムにシラバスを入力する。入力されたシラバスは、作成者以外のチェック担当教員によるチェックを経て、前年度 3 月下旬までに「Tokyo Tech Open Course Ware(OCW)」に公開される。 ・主なシラバス掲載項目は次のとおり。 講義概要とねらい、到達目標、実務経験のある教員等による授業科目等、キーワード、学生が身に付ける力、授業の進め方、授業計画・課題、教科書、成績評価の基準及び方法、関連科目、履修条件など ・年度途中の新規授業科目については、都度シラバスを追加作成し、OCW にて公開する。	
授業計画書の公表方法	下記サイト「Tokyo Tech Open Course Ware(OCW)」に掲載。 http://www.ocw.titech.ac.jp/
２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

・授業科目に関する評価は、授業の目的、形態又は内容に応じ、期末試験等の評価により、総合的に行われ、合否が決められる。評価は 100 点満点で行われ、60 点以上の成績を合格とし、その授業科目の単位が与えられる。一度合格した授業科目については、その単位を取り消すことや、その成績を更新することはできない。なお、一部の授業科目は点数ではなく、合格及び不合格による評価を行う。

・学修の成果に係る評価は、各授業科目のシラバス（下記参考）に掲載されている「成績評価の基準及び方法」により、厳格かつ適正に行われている。

参考：「Tokyo Tech Open Course Ware(OCW)」　http://www.ocw.titech.ac.jp/

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

・客観的な成績評価の指標として、グレード・ポイント・アベレージ（GPA）を設定している。学生は、教務 web の個人ログインページから、自身の GPA を確認することができる。

GPA：各科目の成績を加重平均した数値。成績証明書及び学業成績書に記載するとともに、履修申告上限単位数の上限を緩和する場合の基準、修学指導対象学生にかかる基準として用いる。

(GP の算出方法)

対象授業科目 GP：　GP=(学修の評価－55)／10　（学修の評価が 59 点以下の場合は「0」）

●クォーターGPA＝(当該クォーターに履修申告した対象授業科目の GP×単位数)の総和／(当該クォーターに履修申告した対象授業科目の単位数)の総和

●学期 GPA＝(当該学期に履修申告した対象授業科目の GP×単位数)の総和／(当該学期に履修申告した対象授業科目の単位数)の総和

●年度 GPA＝(当該年度に履修申告した対象授業科目の GP×単位数)の総和／(当該年度に履修申告した対象授業科目の単位数)の総和

●通算 GPA＝(在学期間に履修申告した対象授業科目の GP×単位数)の総和／(在学期間に履修申告した対象授業科目の単位数)の総和

（※いずれも，小数点以下第二位未満の端数があるときは，小数点以下第三位の値を四捨五入）

「○東京工業大学における GPA 制度に関する要項」
http://www.somuka.titech.ac.jp/reiki_int/reiki_honbun/x385RG00001085.html

客観的な指標の算出方法の公表方法	本学ホームページ（上述 URL）及び学修案内（学士課程）に掲載 ○学修案内（学士課程） https://www.titech.ac.jp/guide/guide_2020/gakubu1/

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

<table>
<tr><td colspan="2">（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）
所定の期間在学し、以下に掲げる力を身に付け、所定の単位を修得した学生に学位を授与する。（主に卒業判定を行う組織単位である「系」が確認し、単位を与える仕組みとなっている。それぞれの段階で次に進むための達成度評価を行い、必要な単位・要件を満たしているか確認を行っている。）
〇専門力　基盤的な専門力
・研究及び技術開発の基盤となる専門力
〇教養力　幅広い教養と自ら学び考えることができる力
・物事を俯瞰的に把握できる幅広い知識と語学力
・倫理観と未知の世界に挑戦する意志をもって行動し、自ら学び考えることができる力
〇コミュニケーション力　論理的に表現でき、尊重しあうことができる力
・自分の意見を周囲に対して論理的に表現でき、そして、互いに又はチームで理解及び尊重しあうことができる力
〇展開力（探究力又は設定力）　整理及び分析できる力
・多角的な視点で事象を整理でき、また、論理的な思考で分析できる力
〇展開力（実践力又は解決力）　基本的な問題を解決できる力：
・豊かな発想力や創造力を用い、知識や技能を活用して基本的な問題を解決できる力</td></tr>
<tr><td>卒業の認定に関する
方針の公表方法</td><td>学修案内（学士課程）に掲載
〇学修案内（学士課程）
https://www.titech.ac.jp/guide/guide_2020/gakubu1/</td></tr>
</table>

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	東京工業大学
設置者名	国立大学法人東京工業大学

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.titech.ac.jp/about/disclosure/finance.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.titech.ac.jp/about/disclosure/finance.html
財産目録	-
事業報告書	https://www.titech.ac.jp/about/disclosure/finance.html
監事による監査報告（書）	https://www.titech.ac.jp/about/disclosure/national.html

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：国立大学法人東京工業大学　　対象年度：令和２年度　）
公表方法：本学ホームページ（中期目標・中期計画　第３期中期計画） https://www.titech.ac.jp/about/overview/mid_term_goals.html
中長期計画（名称：国立大学法人東京工業大学 中期目標、 国立大学法人東京工業大学 中期計画 対象年度：平成 28 年度～令和３年度：第３期　）
公表方法：本学ホームページ（中期目標・中期計画） https://www.titech.ac.jp/about/overview/mid_term_goals.html

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法：本学ホームページ（Tokyo Tech Now） https://www.titech.ac.jp/about/disclosure/evaluation/now.html

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：本学ホームページ（大学機関別認証評価） （大学機関別認証評価） https://www.titech.ac.jp/about/disclosure/evaluation/academic.html （経営系専門職大学院認証評価） https://www.titech.ac.jp/about/disclosure/evaluation/professional.html

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　（理学院、工学院、物質理工学院、情報理工学院、生命理工学院、環境・社会理工学院）
教育研究上の目的（公表方法：https://www.titech.ac.jp/about/policies/education/）
（概要） 科学技術を基盤として自ら学び考えることができる人材 学士課程では、基盤的な専門力、並びに、幅広い教養、そして、論理的に表現できる力を身に付け、倫理観と未知の世界に挑戦する意志をもって、自ら学び考えて物事に取り組むことができる人材を養成する。 ◆理学院　真理を探究し知を創造する ◆工学院　新たな産業と文明を拓く学問 ◆物質理工学院　理学系と工学系、２つの分野を包括 ◆情報理工学院　情報化社会の未来を創造する ◆生命理工学院　複雑で多様な生命現象を解明 ◆環境・社会理工学院　地域から国土に至る環境を構築
卒業の認定に関する方針 （公表方法：https://www.titech.ac.jp/guide/guide_2020/gakubu1/）
（概要） 所定の期間在学し、以下に掲げる力を身に付け、所定の単位を修得した学生に学位を授与する。（主に卒業判定を行う組織単位である「系」が確認し、単位を与える仕組みとなっている。それぞれの段階で次に進むための達成度評価を行い、必要な単位・要件を満たしているか確認を行っている。） ○専門力　基盤的な専門力 ・研究及び技術開発の基盤となる専門力 ○教養力　幅広い教養と自ら学び考えることができる力 ・物事を俯瞰的に把握できる幅広い知識と語学力 ・倫理観と未知の世界に挑戦する意志をもって行動し、自ら学び考えることができる力 ○コミュニケーション力　論理的に表現でき、尊重しあうことができる力 ・自分の意見を周囲に対して論理的に表現でき、そして、互いに又はチームで理解及び尊重しあうことができる力 ○展開力（探究力又は設定力）　整理及び分析できる力 ・多角的な視点で事象を整理でき、また、論理的な思考で分析できる力 ○展開力（実践力又は解決力）　基本的な問題を解決できる力： ・豊かな発想力や創造力を用い、知識や技能を活用して基本的な問題を解決できる力
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.titech.ac.jp/guide/guide_2020/gakubu1/）
（概要） 教育の実施方針 世界最高水準の研究の中に学生を招き入れ、学生が自ら学び考える教育を実施する。 ○教育内容の考え方 確かな専門力、豊かな教養力、柔軟なコミュニケーション力、多様な展開力を身に付けるために、以下の教育内容を提供している。 ・専門教育 科学技術に関する幅広い基礎知識や技能、専門分野での研究や諸活動を進める上で基盤となる知識や技能、専門周辺分野や他専門分野の基礎知識や技能、そして、それらを活用できる力を身に付けるカリキュラムを提供する。 ・研究教育

世界最高水準の研究に触れながら、問題設定から解決に至るプロセスの基礎とともに、研究に限らずそれを活用できる力を身に付けるカリキュラムを提供する。

・教養及びキャリア教育

主体性を養い、学修への強い動機付けを行うとともに、専門分野以外の例えば科学技術倫理、異文化や異分野及び語学に関する幅広い知識や技能、そしてそれらを活用できる力を身に付けるカリキュラムを提供する。

〇教育方法等の考え方

・自ら学び考える教育方法を実施する

演習、グループワークや発表や討論を用いた学修、課題解決型学修又は創造性やアントレプレナーシップを育む学修など、時には他者と切磋琢磨しながら、自身の知識や技能を活用し、目標に向かって自ら学び考える教育方法を実施する。

・専門教育に教養教育を有機的に関連付け、段階的に学修できる教育体系を構成する

専門教育に教養教育を有機的に関連付けて科学技術に関する学問の社会的意義についての理解を深め知識と能力をスパイラルアップさせるくさび型教育を、出口を見据えながら、自身の達成度に応じて学士課程から大学院課程まで段階的に学修できる。

・学生の目的に応じた多様な教育プログラムを提供する

留学やインターンシップに代表される学外活動を促進する教育、世界各国の学生とともに学修できる教育、学生の興味及び関心に基づいて幅広く学修できる教育などの多様な教育プログラムを提供する。

〇学修評価の考え方

厳格な学修評価を実施する

授業科目に対して成績評価の基準及び方法を明示し、それに基づいて、学修成果を評価する。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：https://admissions.titech.ac.jp/admission/college/policy.html）

（概要）

〇求める人材像

科学技術への知的好奇心や探究心と社会に貢献したいという志を有し、その基本的概念や基礎知識とそれを活用できる力を身に付けた人材を求める。

〇求める力

専門力：理数系分野に関する基本的概念や基礎知識

教養力：社会に関する基礎的知識と語学力

コミュニケーション力：自らの考えを具体的に表現できる力

展開力：論理的に思考して自らの知識を活用できる力

〇選抜方針

幅広く多様な人材を確保するため、複数の試験及び日程の入試を実施する。

〇選抜方法

学力検査、面接、書類審査などによる試験のいずれかを又は組み合わせて行い、本学で学修するに足る学力又は適性があるかを測る。

◆理学院

幅広い教育と自由な発想に基づいた研究を通じて、社会や文化の発展に広く貢献することを目指す。

◆工学院

人の生活を豊かで快適なものとするための工学的知識・技術を習得し、さらにそれらを進化させるための研究活動の基本を身につける。

◆物質理工学院

材料学および応用化学に関する確かな基礎学力と明快な論理的思考力を持ち、環境調和型社会の発展に貢献できる人材を養成する。

◆情報理工学院

よりよい情報化社会を築くために必要となる情報理工学に関する幅広い知識と柔軟で広い視野を持った人材の育成を目指す。

◆生命理工学院
理工系の基礎知識や生命理工学分野の基礎的専門知識を修得させ、生命理工学に関連した科学・技術の発展に資する課題解決力と倫理観を養う。
◆環境・社会理工学院
人類と社会の持続的発展に貢献するために理工学的叡智に加えて人文社会科学的叡智を広く環境や社会に応用・展開して卓越した学術・技術を創生するとともに、高い知性と豊かな教養、国際的な広い視野と深い思考能力を備え、科学・技術の専門家として社会で活躍できる人材を養成する。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本学ホームページ（組織一覧）
https://www.titech.ac.jp/about/organization/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a.教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手その他	計
－	5 人	－					5 人
その他	－	344 人	349 人	14 人	332 人	0 人	1,039 人

b.教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
5 人	810 人	815 人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法：WEB で公表。 ・「東京工業大学 STAR サーチ(STAR Search)」 本学の研究者のプロフィール、研究業績、教育活動、社会活動等に関する情報を検索できるシステム https://search.star.titech.ac.jp/ ・「東京工業大学リサーチリポジトリ(T2R2)」 本学の研究者（教職員、学生等）が執筆した論文・著書を検索できるシステム https://t2r2.star.titech.ac.jp/

c.ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

2015 年度に全学的な FD 活動を総括実施する組織として教育革新センターを設置した。
同センターは各部局における FD 活動支援策として、オンライン教材等の開発および FD セミナー等の提供と、授業学修アンケートの実施に取組むとともに、宿泊型の全学 FD 研修も実施した。これにより各年度中に全専任教員の 4 分の 3 以上が、FD 活動に参加できる体制を構築した。
2019 年度　専任教員
FD 活動参加人数　941 人/1053 人　89.4%

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a.入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員(a)	入学者数(b)	b/a	収容定員(c)	在学生数(d)	d/c	編入学定員	編入学者数
理学院	151 人	162 人	107%	604 人	665 人	110%	-人	1 人
工学院	358 人	381 人	106%	1,450 人	1,636 人	112%	9 人	12 人
物質理工学院	183 人	194 人	106%	742 人	799 人	107%	5 人	4 人
情報理工学院	92 人	103 人	111%	372 人	446 人	119%	2 人	3 人
生命理工学院	150 人	162 人	108%	620 人	625 人	100%	10 人	10 人
環境・社会理工学院	134 人	145 人	108%	544 人	602 人	110%	4 人	1 人
教養課程(類)	-人	-人	%	-人	22 人	%	-人	-人
※理学部	人	人	%	人	※2 人	%	人	人
※工学部	人	人	%	人	※7 人	%	人	人
※生命理工学部	人	人	%	人	※2 人	%	人	人
合計	1,068 人	1,147 人	107%	4,332 人	4,795 人	110%	30 人	35 人

（備考）学院制移行後の平成 28 年度以降入学者を計上した。
なお、下段の※の学部の在学生数は、募集停止学部等における平成 27 年度以前の入学者のうち休学等で修業年限を超えていない者を計上、在学生数の合計からは除いてある。

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
理学部	31 人 (100%)	15 人 (48%)	12 人 (39%)	4 人 (13%)
工学部	87 人 (100%)	29 人 (33%)	38 人 (44%)	20 人 (23%)
生命理工学部	13 人 (100%)	3 人 (23%)	9 人 (69%)	1 人 (8%)
理学院	106 人 (100%)	90 人 (85%)	13 人 (12%)	3 人 (3%)
工学院	323 人 (100%)	288 人 (89%)	25 人 (8%)	10 人 (3%)
物質理工学院	176 人 (100%)	173 人 (98%)	2 人 (1%)	1 人 (1%)
情報理工学院	92 人 (100%)	76 人 (83%)	14 人 (15%)	2 人 (2%)
生命理工学院	135 人 (100%)	121 人 (90%)	10 人 (7%)	4 人 (3%)
環境・社会理工学院	125 人 (100%)	108 人 (86%)	12 人 (10%)	5 人 (4%)
合計	1,088 人 (100%)	903 人 (83%)	135 人 (12%)	50 人 (5%)

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）
進学先：東京工業大学、東京大学、京都大学、北陸先端科学技術大学院大学、東北大学、総合研究大学院大学、東京都立大学
就職先：任天堂、シンプレクス、横河電機、KPMG 税理士法人、ソフトバンク、みずほフィナンシャルグループ、東京都庁、スズキ、チームラボ、コーエーテクモホールディングス他

（備考）

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)

（備考）

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）
・カリキュラムは主に全学共通科目及び各学院（各系）の専門科目により構成される。
例年、前年度 11 月頃に教務課から各学院及び全学科目担当部局あてに、翌年度カリキュラム作成依頼を行い、各学院代議員会の議を経て、１月頃までにカリキュラムを決定する。

・本学では、学士課程・大学院課程を問わず全ての科目について、日本語版・英語版両方のシ

ラバスを作成し、公開する方針を決定している。翌年度カリキュラム決定後、教務課から授業科目担当教員宛に、日本語版及び英語版の授業計画（シラバス）の作成を依頼する。授業担当教員は教務 web システムにシラバスを入力する。入力されたシラバスは、作成者以外のチェック担当教員によるチェックを経て、前年度 3 月下旬までに「Tokyo Tech Open Course Ware(OCW)」に公開される。

・主なシラバス掲載項目は次のとおり。
講義概要とねらい、到達目標、実務経験のある教員等による授業科目等、キーワード、学生が身に付ける力、授業の進め方、
授業計画・課題、教科書、成績評価の基準及び方法、関連科目、履修条件など

・年度途中の新規授業科目については、都度シラバスを追加作成し、OCW にて公開する。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）
・学修の成果に係る評価は、各授業科目のシラバス（下記参考）に掲載されている「成績評価の基準及び方法」により、厳格かつ適正に行われている。
参考：「Tokyo Tech Open Course Ware(OCW)」http://www.ocw.titech.ac.jp/

（概要）
所定の期間在学し、以下に掲げる力を身に付け、所定の単位を修得した学生に学位を授与する。（主に卒業判定を行う組織単位である「系」が確認し、単位を与える仕組みとなっている。それぞれの段階で次に進むための達成度評価を行い、必要な単位・要件を満たしているか確認を行っている。）
〇専門力　基盤的な専門力
・研究及び技術開発の基盤となる専門力
〇教養力　幅広い教養と自ら学び考えることができる力
・物事を俯瞰的に把握できる幅広い知識と語学力
・倫理観と未知の世界に挑戦する意志をもって行動し、自ら学び考えることができる力
〇コミュニケーション力　論理的に表現でき、尊重しあうことができる力
・自分の意見を周囲に対して論理的に表現でき、そして、互いに又はチームで理解及び尊重しあうことができる力
〇展開力（探究力又は設定力）　整理及び分析できる力
・多角的な視点で事象を整理でき、また、論理的な思考で分析できる力
〇展開力（実践力又は解決力）　基本的な問題を解決できる力：
・豊かな発想力や創造力を用い、知識や技能を活用して基本的な問題を解決できる力

学部名	学科名	卒業に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
理学院	数学系	124 単位	有	単位
	物理学系	124 単位	有	単位
	化学系	124 単位	有	単位
	地球惑星科学系	124 単位	有	単位
工学院	機械系	124 単位	有	単位
	システム制御系	124 単位	有	単位
	電気電子系	124 単位	有	単位
	情報通信系	124 単位	有	単位
	経営工学系	124 単位	有	単位

物質理工学院	材料系	124 単位	有	単位
	応用化学系	124 単位	有	単位
情報理工学院	数理・計算科学系	124 単位	有	単位
	情報工学系	124 単位	有	単位
生命理工学院	生命理工学系	124 単位	有	単位
環境・社会理工学院	建築学系	124 単位	有	単位
	土木・環境工学系	124 単位	有	単位
	融合理工学系	124 単位	有	単位

ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）	活用状況：GPA は、成績証明書及び学業成績書に記載するとともに、履修申告上限単位数の上限を緩和する場合の基準、修学指導対象学生にかかる基準といて用いる。 公表方法：本学 HP 及び学修案内（学士課程）に掲載 「東京工業大学における GPA 制度に関する要項」 http://www.somuka.titech.ac.jp/reiki_int/reiki_honbun/x385RG00001085.html
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）	○東工大学生リーダーシップ賞 要項：本学ホームページに掲載 http://www.somuka.titech.ac.jp/reiki_int/reiki_honbun/x385RG00000315.html 受賞者公表方法：本学ホームページに掲載 https://www.titech.ac.jp/news/2018/042879.html ○その他学生の表彰歴等は下記 HP に掲載 https://www.titech.ac.jp/news/prize/

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：本学ホームページ及び広報誌（東工大ハンドブック、データブック、入学案内）
（キャンパス案内）
https://www.titech.ac.jp/about/campus_maps/
（在学生の方－施設利用）
https://www.titech.ac.jp/enrolled/facilities/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料（年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
理学院	数学系 物理学系 化学系 地球惑星科学系	635,400 円	282,000 円	0 円	
工学院	機械系 システム制御系 電気電子系 情報通信系 経営工学系	635,400 円	282,000 円	0 円	
物質理工学院	材料系 応用化学系	635,400 円	282,000 円	0 円	
情報理工学院	数理・計算科学系 情報工学系	635,400 円	282,000 円	0 円	
生命理工学院	生命理工学系	635,400 円	282,000 円	0 円	
環境・社会理工学院	建築学系 土木・環境工学系 融合理工学系	635,400 円	282,000 円	0 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a.学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） ・新入生オンラインガイダンスの実施（学士課程学生） ・担当教職員（学修コンシェルジュ）による履修等に関する個別相談対応 ・先輩学生（ピアサポーター）による履修等に関するオンライン相談会開催 ・教養科目の相談に対応する相談室の開設 ・授業支援を行うための教材やツール（TOKYO TECH OCW-I、MOOC）の開発・提供 ・学修ポートフォリオを用いて、アカデミック・アドバイザー（学生あたり２名の教員が担当）のきめ細かいサポート ・他部署や企業と連携した各種セミナーの開催 ・全学の学修支援担当教職員間の連携構築（入学時ガイダンス及びオリエンテーション情報交換会） ・学生と協同した学修関連情報の発信
b.進路選択に係る支援に関する取組
（概要） ・進路、就職支援のための情報提供や、就職ガイドブックの発行、ガイダンスの開催、就職関連イベントの実施 ・系ごとに配置された就職担当教職員による、専門分野を活かした就職支援 ・キャリアアドバイザーによる、進路、就職相談の実施 ・本学学生の進路、就職情報の収集と提供
c.学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） ・保健管理センターの医師・カウンセラー・看護職・薬剤師による、健康面・精神面の相談の実施 ・各種相談窓口（学生相談室、電話相談デスク、キャリア相談、学修コンシェルジュ、バリアフリー支援室、ハラスメント相談窓口等）を設置し、多様な学生へのきめ細やかな支援を実施 ・学生一般/特殊健康診断の実施、結果に応じて医療・生活指導の実施 ・予防啓発活動の実施（学内研修への講師派遣、普通救命講習会、応急手当講習会、カウンセリング懇談会等の開催）

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本学ホームページ及び広報誌 （データブック 2019-2020） https://www.titech.ac.jp/about/overview/pdf/databook2019_20.pdf